

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091100026		
法人名	株式会社 シェイクハンズ		
事業所名	グループホーム清水の里		
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市南区清水3丁目5-13 (電話) 092-551-0008		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年8月24日	評価確定日	平成21年9月30日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤2人, 非常勤9人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物形態	単独/併設	新築/改築
建物構造	木造モルタル造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(100,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	相和会中村病院 福岡徳州会病院 田中外科胃腸科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは昭和の雰囲気を残し、気分が落ち着く空間を作り上げている。立ち上げから関わる施設長は、地域に対するボランティアに熱心で、地域の高齢化による問題をどうにかしようと、高い志でこのホームを開設している。困っている高齢者や家族に対しては、一生懸命支援に取り組む姿勢が見られる。職員が遠慮することなく、運営や介護計画に関して意見を言うことができ、上司も真摯に耳を傾け、共に改善に努めている。そのためか各職員の責任感が強く感じられ、それでいて和気あいあいとした人間関係が見受けられる。職員と入居者の会話が活発に聞かれ、笑い声が絶えないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は、運営推進会議の記録の書き方、権利擁護の全職員に対する研修、職員研修に対する計画の設定などの課題が挙げられており、職員はそれを把握し、検討している。改善途中の項目もあるが、今後も取り組んでいく姿勢が見られる。評価の内容は、運営推進会議で報告がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全員で書き込みながら検討し、作成している。自己評価の意義を理解し、事業所の運営がよりよくなるためにと、一人ひとりが積極的に取り組んでいこうとする姿勢が見られる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1度召集され、自治会長、民生委員、包括支援センター等の参加があり、利用者家族も毎回2名参加されている。近況報告や意見の聴取を行い、評価についての報告も行われている。地域の方からのホームでの様子や場所がわかりにくいとの意見に対し、誕生会への招待や便りを回覧板に入れるようにする、看板を設置するなどの円滑な対応がなされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族会で要望を聞き取るほか、家族の来訪時に十分に話を聞いている。職員は全員、入居者一人ひとりを把握しているため、どなたにも対応することが出来る。夜勤帯に家族の来訪があり、申し送り事項が発生した場合は責任をもって、早出帯、日勤帯へと伝言がなされている。入居者と一緒に行事を楽しみたいとの声に、家族会に合わせて誕生会を行うなどして参加しやすくしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の回覧板や廃品回収、高齢者集いのサロン等へ参加するなど地域との関わりが持たれている。四葉のクローバーを見つけては届けてくれるご老人や犬の散歩の際に立ち寄り男性、近くの保育園児とも声を掛け合うなど交流がもたれている。見学やボランティアの受け入れも数多く行われている。近所の会社では万一ホームで火災が発生した場合は、従業員は救助を行うように社長より申し伝えがなされており、災害時の連携もとれている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症高齢者の皆さんが健康で、楽しく生きがいのある生活ができ、ご家族にとっても、いつでも安心できる暖かい家庭的なグループホームを目指します。」という理念は事業所立ち上げの時に作られ、職員はそれを忠実に実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入り口の目に付くところに掲げられ、スタッフ会議の際、繰り返し確認され、管理者、職員とも心に留めて対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の回覧板にホームの便りを入れ回覧している。廃品回収や高齢者のサロンに参加したり、近所の住民や保育園児との交流もあり、地域に馴染んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘を受けた項目については職員間で検討し、改善に向けて取り組む姿勢が見られる。今回の評価に対しても職員全員が記入する方法を取り、一人ひとりの考えが反映されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、地域住民や市職員、入居者や家族とともに開催されている。評価の内容を含めたホームでの様子や行事等の報告がなされ、参加者の意見が聴取されている。意見に対しては真摯に受け止め、早急な対応がなされている。しかし会議後の記録が整理されていないため、確認が出来にくい。		運営推進会議の会議録を早急に整理され、文書化することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行う研修に参加している。施設長は頻回に市に足を運び、質問や意見を投げかけていく中で関係作りをしている。市からの依頼で名古屋市議会の見学を受け入れるなどの実績もある。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	施設長は実際に家族からの支援が受けられない入居者の成年後見人になっており、事細かに支援している様子がある。職員もパンフレットを読んでいるほか、実際の施設長の様子を見て生きた学習をし、制度を理解している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	施設長は実際に家族からの支援が受けられない入居者の成年後見人になっており、事細かに支援している様子がある。職員もパンフレットを読んでいるほか、実際の施設長の様子を見て生きた学習をし、制度を理解している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は頻回にホームを訪れ、職員に直接入居者の様子を聞いたり、お願いをされたりしている。職員一人ひとりが入居者全員の状態を把握しており、誰に尋ねてもすんなり返事がもらえると家族は喜ばれている。玄関には意見箱を設置している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	普段から職員一人ひとりが入居者全員の状態を把握し、対応できるよう努めている。退職の際は、辞める旨は伝えず、「近いところに転勤になった」「帰った」と説明し、混乱を回避している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に際しては、年齢、性別等での制限はしていない。数名勤務している60代の職員も生き生きとやりがいを持って勤務している様子が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習を受ける機会があった場合は、スタッフ会議の際に伝達講習をしているが、伝達講習後の記録はまとめられておらず、その都度、レジメや資料を各職員に配布している。		講習後の資料は事業所内にも保管し、伝達講習に対しては日時・参加者の記載を行なうことが望まれる。
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が介護福祉士やケアマネージャー等の資格を希望した場合は、試験や研修のために勤務のシフトを優先するなどして支援している。資格取得後は給与手当てにも反映させ、職員のやる気を育てている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は地元地域に対するボランティアを長年継続しており、幅広い人脈を持っている。グループホーム同士の交流も見られ、空室状況を問い合わせたり、お互いのホームを見学したりなどしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者が慣れるまで、何度か見学に来ていただいたり、体験宿泊を行っている。また、職員が自宅に出向いて、顔なじみの関係を作るなどしてサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者とともに、洗濯物たたみや調理、配膳や茶碗洗い、植物の水やりなど日々の家事をともに行い、支え合いながら過ごしている。餃子包みや饅頭作りなどが得意な入居者から教えていただくこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族より、詳しく生活歴や興味のあること、趣味等を聞きだすとともに、日々の生活の中で、一人ひとりの個性を把握している。その上で、その方にあった塗り絵や庭いじり、外出などの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は画一的なものではなく、本人や家族の希望を聞き、スタッフから身体状況や本人が持つ能力について詳しく報告を受けたり、観察を行った上で、一人ひとりに合わせて作成された生きた計画である。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は職員の目に付くところに置かれ、把握した上で入居者と接している。変化や問題点に気付いた際はその都度計画担当者に報告し、必要時は計画を変更している。また計画の見直しはスタッフ会議の中で毎回行われ、検討内容や新しく作成された介護計画はきちんと整理されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望される買い物や訪問理容などに柔軟に対応している。入院された入居者に対しては毎日のお見舞いを欠かさず、洗濯などのお世話もしている。退院されるまで長期間待つなど良心的な対応もされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医については希望に従い、受診を継続している。基本的には家族による送迎をお願いしているが、無理な場合は職員で行っている。ホームには月に一度、提携病院からの往診がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までにホーム内での看取りの経験はないが、寝たきりで重篤な状態になっても、提携医と相談しながら出来る限りの支援を行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者に対する言葉かけは穏やかで、食べこぼしの処理や排泄の誘導などもさりげなく行っている。個人の情報をまとめたファイルはきちんと保管されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間の配分はあるが、入居者のペースを優先し、ゆったりとした生活が送られている。買い物や散歩など外出の支援や本人の趣味に合わせた塗り絵等も行われている。動きが低下した入居者に対しては職員の方から声かけし、出来るだけ活動が出来るように誘導している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつは、入居者と共に手作りする機会を設け、楽しまれており、おいしくいただいている。配膳や茶碗洗い等も共にされている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる入居者が多く苦労している様子が見られるが、週2日の入浴日のほかに、希望の際の入浴は随時受け入れ、臨機応変な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	饅頭や餃子を包んだり、シソジュースやイチゴジャム作りを一緒に行うなどしている。絵が好きな方には塗り絵を提供したり、作業が可能な方には洗濯物たたみや配膳、茶碗洗いなど、家事を手伝っていただくこともある。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が高齢になり、以前に比べると外出の希望が減ったが、散歩や買い物など希望があればその都度対応している。年に数回は博物館や大型ショッピングセンターへ外出もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを心得ており、玄関などは開放している。しかしながら現在、他人の部屋に入り込む入居者がいるため、やむを得ず、入り込まれる側の入居者自身に内からの施錠をお願いしている状態である。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から、消防署の協力を得て年2回の避難訓練を重ねている。消防に通報する際はホーム名を言うだけで出動できる態勢をとっていただいている。近隣の会社からもいざというときは避難活動への協力をいただく旨の約束を得ている。避難の際の最終的な集合場所が決定していない。		火災等の災害時、避難後に最終的に集まる場所を統一し、すばやい人数確認が行われる体制を整えることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見やすい一覧表を作成し、一人ひとりのバイタルや食事量、飲水の状況、排泄回数がひと目で分かるように工夫している。職員はそれを確認し、不足の内容に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昭和の雰囲気を残した懐かしさを感じるホームである。都会の中の建物とは思えないほど静かで、明るさも丁度よい。季節の花が飾られ、学校で使わなくなった机をインテリアに利用するなど、工夫が見られる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は畳敷きでレトロな雰囲気であり、入居者の年代には特に落ち着きを感じられる作りである。各々が使い慣れた家具や仏壇等を部屋に持ち込み、個性のある思い思いの部屋作りがされている。		